

..... 編集後記

◆ 日本中を熱くさせたサッカーW杯も、ブラジルの優勝によって幕を閉じました。日本チームも予想外の健闘と言って良いのでしょうか、予選リーグを2勝1分けて突破し、W杯史上初の決勝トーナメント入りを果たしました。サッカーにはあまり興味のない私ですが、勝ち進むにしたがってにわかサッカーファンとなり、日本選手がゴールを決めるたびに、おもわず快哉を叫んでいました。決勝トーナメントでは惜しくも1回戦でトルコに破れはしましたが、「口惜しい、負けた気がしない」とのゲーム後の選手のコメントがある限り、次回のドイツ大会ではもっと上位をねらえるものと確信しました。

◆ 今年は久しぶりに梅雨らしい梅雨でした。6月の東京都平均降水量も平年並みとか、例年なら、赤茶けた渇水ダムの映像や写真がマスコミをにぎわすのですが、今年はそれもなかったようです。しばらくは梅雨寒の日が続きましたが、通勤途上で目にする紫陽花の花弁が雨露に塗れ、色鮮やかな様子が印象的でした。

◆ さて、今月号の特集は「環境を記録する生物」と題し、それぞれの研究最前線に立つ若手研究者たちが健筆をふるっています。扱う海洋生物は、数ミクロンの単細胞生物から1m以上のシャコガイまでと、バラエティーに富んでいます。化石から地質時代の地球環境を復元することは、従来から古生物学

の大きなテーマの一つでしたが、化学、生物学、海洋学、情報処理などの手法・機器の急速な進歩によって、過去・現在の地球環境変動に関するいろんな情報を細かい精度で読みとることが出来るようになったことに驚かされます。どうやら、現代の進んだ科学的手法を取り入れた新しい融合領域の研究分野が誕生しつつあるようです。今月号では石灰質生物を扱い、次号では珪質生物について引き続き特集を組む予定です。

◆ 「福井県大野市打波川流域の石灰華形成地」は、めずらしい冷泉性の石灰華を取り扱った記事、「東海地方で開発された地下空洞の調査と充填工法」は、名古屋近在の亜炭採掘地あとで、しばしば問題になっていた陥没事故を予防するために組織された日本充てん協会の沿革と活動を紹介したものです。

◆ 6月号でもお知らせしましたが、7月27日(土)から9月29日(日)のあいだ、地質標本館特別展「活断層と地震-活断層ってなあに?」が開かれています。夏休みの宿題に困っている子供さんをお持ちのご両親、クーラーのきいた標本館で宿題のネタ探しをするのはいかがでしょうか。お子さま連れでお気軽におこし下さい。

(吉田史郎)

地質ニュース編集委員会

委員長：吉田史郎

副委員長：谷田部信郎

委員：磯部一洋・関口春子・中島 隆・
安川香澄・飯笹幸吉

連絡先：地質調査総合センター 地質標本館
〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1
Tel. 0298-61-3754
Fax. 0298-61-3569

地質ニュース	第575号	2002年	7月号
	定価¥785(本体価格¥748) ㊦実費		
2002年7月1日	発行		
編集	産業技術総合研究所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 ㊦102-0073		
	Tel. (03)3265-0951(代表)		
	Fax. (03)3265-0952		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 エアフォルク		

©2002 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターおよびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ